

古高取通信

令和5年1月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

- 1. 活動の拠点を創る
- 2. 古高取の知識を深める
- 3. 古高取の魅力を伝える
- 4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



目次

古高取紹介	2
活動の記録	3
なんでも掲示板	7
新理事紹介	8
ダイジェスト	9
お知らせ	10

『誰もが輝ける社会を目指して』

昨年十一月、直鞍9条の会の総会での伊藤千尋さんの講演を聞いてきました。

国際的なジャーナリストである伊藤さんの平和への願いあふれる話に感動しました。特に、平和国家を実現させたコストリカの話が印象に残りました。

『1949年に平和憲法を施行、本当に軍隊をなくしました。その理由は、

①内戦への反省。

②軍事費にカネがかかりすぎる。

そして軍隊廃止時のスローガンは

○兵士の数だけ教師をつくらう。

○兵舎を博物館にしよう。

○武器をバイオリンに替えよう。です。

コストリカの国会は、今の議員は次の選挙に立候補出来ない。57議席のうち女性議員は46%です。』現在、コストリカは

「地球幸福度指数」152カ国中1位。(日本は57位)『国を守るといふ考えは、国境の向こうは敵だ、と発想し、いつか殺し合いに発展する』と話していました。ロシアのウクライナ侵略を筆頭に世界各地で紛争が絶えません。防衛費の増大を阻止するなど、戦争のない社会を目指し、私たちにできることがあるのではないのでしょうか。

隅田知明

古高取紹介

内ヶ磯窯跡保存措置について

理事 副島 邦弘

古高取を代表する窯跡である内ヶ磯窯跡は、福智山ダム建設計画が発表されて以来、その保存が大きな課題として議論が繰り返されてきた。

窯そのものを切り取り移設保存等の案も提出された。この案は北九州の愛宕遺跡に存在した小倉採園場窯跡の例を意味している。課



保存措置後内ヶ磯窯と福智山ダム

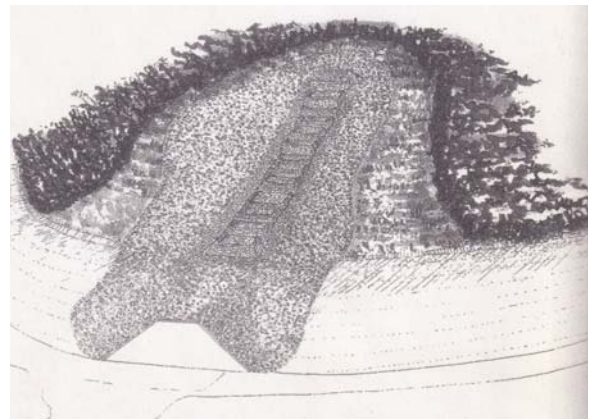
題が多く実現には至らなかった。ダムの耐用年数を考え、将来ダム使用が終了した後、再び元の姿を現すことができるような保存工事を施すという結論に達した。

しかしながら、水没する遺構に対して保存処置を施し、数々の状況が想定されるダムの湖底に沈めるといった措置は、過去に類例を見ず、果たして旨くいのかどうか不安は絶えずあったが、今回が学習の場となっていた。今後、別の場所と同様の問題が生じたときには活用されることが望まれる。その経過について述べると、保存への具体的な取り組みは発掘調査と平行して、平成十年度（一九九八）から始められた。

佐賀大学林重徳教授・九州大学牛島恵輔教授・福岡県教育庁文化財保護課・福智山ダム事務所の四者で、今後の取り組みについて協議が実施された。

それを受けて平成十一年度（一九九九）より物理探査（地震探査屈曲法・地中レーダー探査法）が実施され、さらに林教授の指導の下で川崎地質株式会社によってボーリング調査が実施された。

この調査により窯とその周辺の地質の特性が把握され、これらのデータを基として平成十二年度



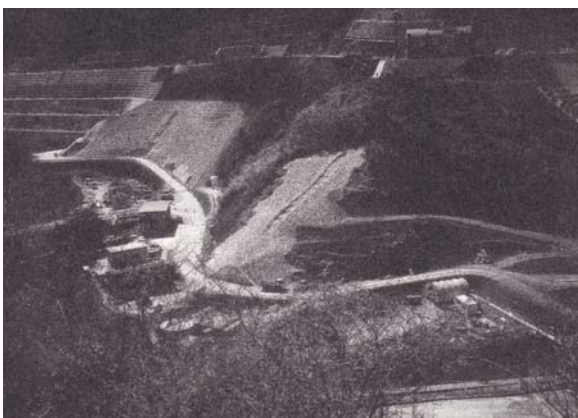
内ヶ磯窯跡保存イメージ

（二〇〇〇）に保存措置に関する基本設計・実施設計が作成されることとなった。基本設計・実施設計は株式会社シーマコンサルタントに業務委託し、四回の全体協議の他、多数の個別協議を重ねた。例えば、盛土は自然石張工法を使用する。石材は30cm内外の物で、窯本体ジオテキスタイル工法を採用する。擁壁は高さ4mコンクリート製等が決定された。試験湛水が平成十四年度（二〇〇二）に入らないという条件が示されたため平成十三年度に保存工事が終了する必要があったため、県教委文化

財保護課としては、平成十二年度の基本設計・実施設計まで主体的に行い、実際の保存工事は福智山ダム事務所が担当することとなった。

この計画によって、現在の福智山ダムが完成し、周辺部の公園化が計られ、市民の憩いの場となっている。

※「内ヶ磯窯跡保存の経緯」『内ヶ磯窯跡3』福岡県文化財調査報告書第一八一集 二〇〇三 福岡県教育委員会を底本として使用した。



保存措置後内ヶ磯窯跡全景

活動の記録(令和四年七月～十二月)

理事会

- 〔第四回〕
〈令和四年七月四日(月)〉
- 〔第五回〕
〈令和四年八月一日(月)〉
- 〔第六回〕
〈令和四年九月五日(月)〉
- 〔第七回〕
〈令和四年十月三日(月)〉
- 〔第八回〕
〈令和四年十一月七日(月)〉
- 〔第九回〕
〈令和四年十二月五日(月)〉

焼物部会

- 〔第四回〕
〈令和四年七月五日(火)〉
場所…中泉小学校
- 〔第五回〕
〈令和四年七月六日(水)〉
場所…直方西小学校
- 〔第六回〕
〈令和四年九月十六日(金)〉
場所…上頓野小学校
- 〔第七回〕
〈令和四年九月二十九日(木)〉
場所…新入小学校

〔第八回〕

〈令和四年十月十四日(金)〉
場所…感田小学校



〔第九回〕

〈令和四年十月十八日(火)〉
場所…植木小学校

〔第十回〕

〈令和四年十一月二日(水)〉
場所…福地小学校

〔第十一回〕

〈令和四年十一月十五日(火)〉
場所…直方南小学校



学習部会

- 〔第一回〕
〈令和四年十月二十二日(土)〉
十時三十分～十二時
講義…千利休の系譜
場所…古町北区公民館
- 〔第二回〕
〈令和四年十一月十九日(土)〉
十時三十分～十二時
講義…古田織部の系譜
場所…古町北区公民館
- 〔第三回〕
〈令和四年十二月十七日(土)〉
十時三十分～十二時
講義…小堀遠州の系譜
場所…古町北区公民館

広報部会

- 〔第二回〕
〈令和四年十二月二十六日(月)〉

●小学六年生対象焼物教室

〈令和四年十一月十五日(火)〉
場所…直方南小学校

コロナで何かと行動制限される中、小学六年生の焼物教室が直方南小学校で実施されました。



生徒たちは古高取焼の歴史や出土品の陶片紹介に耳を傾けていました。

茶碗造りになると手に土が付くと嫌な顔をしながらも、少しづつ形になりだすと笑みがこぼれてきてなんとか茶碗らしくなりました。

「楽しかった」「出来るのが楽しみ」等の感想を言ってくれて私達も嬉しくなりました。

南小学校の六年生はまとまりがよくて、片付けや荷物運びにも協力してくれて助かりました。卒業式前に世界に一つだけのマイ茶碗でお茶会ができるように願っています。

向野志津絵

●親子陶芸教室に参加して

～高取焼を親子で学ぼう～
(地域対象焼物教室)

〈令和四年十一月三日(木・祝)〉

場所：直方市中央公民館

さわやかな秋晴れの文化の日に、親子陶芸教室に参加しました。行楽シーズンという中、静かでゆったりとした時間を過ごすことができました。お父さんと一緒、お母さんと一緒に、皆さんとても仲良しの親子でした。市役所、学芸員、古高取を伝える会の皆さん方、とても優しく親切で、楽しかったです。

作品作りは新鮮で、ロクロからはみ出すくらいの大皿を作る子、丁寧に指跡を残さず茶碗を作るお父さん、子供をちらちら見ながら作るお母さん、皆さん上手でした。

Pottery classとあるとおり今風の皿が多いのが目立ちました。ラッキーに抽選に当たった方ばかりと聞き、熱心さにさらにうなずきました。

また、作るのがはやく、もつとゆっくり作ってもいいのにも思いました。作品が出来上がってきたら、花なり、食べ物なり、いろ

んなアレンジをし、使い方を写真にしてほしいと思います。若い方の使い方のセンスを見てみたいです。

今回、資料の古高取の陶器を手にとって見られたことはすごく良かったと思います。ひとつずつの陶片に寄り添うように作られた紙の箱にはとても好感が持てました。ふわっとして、学芸員さんたちの優しさや情熱を感じました。

陶芸教室で作った作品は、これから、高台けずり、乾燥、素焼き、



釉薬掛け、本焼きと、まだまだたくさん行程があります。そうして出来上がった作品は「ひとつだけのもの」ふるさとの思い出です。大切に使うってほしいと思います。

『文化の日子らの手にする古高取』

升水恵美子

●親子陶芸教室に参加して

～高取焼を親子で学ぼう～
(地域対象焼物教室)

〈令和四年十一月三日(木・祝)〉

場所：直方市中央公民館

11月3日、親子陶芸教室に参加しました。当選ハガキが届いてから、「何を作る？」と親子でワクワク。

迎えた当日は、まず高取焼について教えていただきました。

400年前に生まれた高取焼が江戸時代には流行の最先端だったとのこと、びっくりでした。

そのあと作品づくりです。ひんやりとした丸い土の塊から少しず



つ形ができあがっていくのがまたワクワクでした。隣に座る娘の小さな手でどんなものが出来るのかと楽しみに見ていると何だか素敵なお茶碗ができてきました。最終的には家族3人ともお茶碗ができました。年末までには焼き上がり、作品をいただけるとのこと、お正月にはマイ茶碗でお茶をいただくのを楽しみにしています。

お世話になった先生方、楽しい体験をありがとうございました。

C・A

●親子陶芸教室に参加して

～高取焼を親子で学ぼう～
(地域対象焼物教室)

〈令和四年十一月三日(木・祝)〉
場所：直方市中央公民館

よし、僕も一緒に作ってみるか。少しひんやりとした滑らかな肌触り。掌で感じる弾力とずっしりとした力強さ。久しぶりに触る粘土の感覚は、どこか懐かしくとも気持ちが悪く落ち着きます。

叩いて、つまんで、持ち上げて。なかなか思ったような形にはなりません。自在に形を変えていく作業は実に楽しい時間です。

「指先でつまんで、引き上げるように。そう、ちゃんと厚みを感じながら、ゆっくり」と思うがままに粘土と格闘する傍から、「古高取を伝える会」のボランティアの方がさりげなくアドバイスしてくださいました。

「そうそう、なかなか上手！」
不格好な粘土の前に、やさしい言葉をかけてもらうと、いくつになっても気持ちが良いものです。

周りを見渡すと、親子で楽しそうに、そして真剣に粘土と格闘している姿が。そしてたくさんさんのポ

ランテイアさんが、各テーブルに声をかけて、時には一緒に作品の手直しをしてくださる姿がありました。

参加された13組33名の皆さんからは、子どもと一緒にものづくりができて楽しかった、という声はもちろんのこと、歴史のある全国に誇れる高取焼の魅力やすごさを改めて学ぶことができた、高取焼が江戸時代の最先端だったことに驚いた、などの感想が聞かれました。



今回、「古高取を伝える会」の皆さんのおかげで、このような、親子のものづくり体験を通じて直方の歴史を学ぶ企画が実現できました。

ありがとうございます。
さて、悪戦苦闘したあの茶色い器が、どんな衣装を纏って手元に戻ってくるのだろうか。テーブルデビューは何を盛りつけようか。楽しみはまだ続きます。

直方市教育委員会
文化・スポーツ推進課
課長 梅原達巳

●グリーンコープ生協焼物教室

(地域対象焼物教室)

〈令和四年十月八日(土)〉

十時～十時三十分

場所：直方歳時館

参加：12人(小学生3人)

焼き物教室に参加したい方ばかりだったので、みんな熱心に集中して楽しく成形していました。とてもいい作品ができました。二組が親子で参加していました。お茶会をしたいと歳時館利用で12月15日に決定しました。楽しみにして



いるとのことでした。久々の地域焼物教室でしたがこれからも、地域でもっと実施したいなと思いました。

永富セツ子

参加者の感想

○初めての体験だった。ねん土に触れ成形していく過程がとてもわくわくした。

○思い通りに出来上がり感動した。

○早く自分の茶わんでお茶会に参加したい。

●グリーンコープ生協焼物教室
(地域対象焼物教室)

〈令和四年十月八日(土)〉

十時～十時三十分

場所…直方歳時館

参加…12人(小学生3人)

10月8日グリーンコープ直方地域委員会「秋のつどい」にて高取焼制作体験をさせて頂きました。初めて土に触れる方も多く気持ちまで癒されたと大変喜んでおられました。制作時間の短さに驚きましたが、みんなステキな器を完成させていました。焼き上がりを楽しみにしています。

清水美香子



●鞍手幼稚園焼物教室
(地域対象焼物教室)

〈令和四年十月三日(月)〉

場所…鞍手幼稚園

鞍手幼稚園で毎年実施されている「年長さん」の焼物教室に行ってきましたので、その時の様子を書きました。



新型コロナウイルス感染拡大防止を考えて、密を避けるために部屋を5か所に分けての少人数対応で準備されていました。

私の担当は園児7名(作るのは園児のみ)との部屋でした。午後2時からの始まりでしたので、15分程前に部屋に入ると、園児たちはとてもお行儀よく静かに待機していました。私も久々に緊張感が走りました。

時間になり園内放送の始まりの

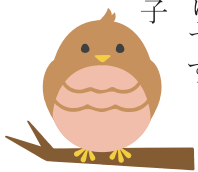
合図で、園児たちは作り方の説明を聞きながら、粘土を嬉しそうに触り、抹茶碗の形にできていましたので安心しました。小さい手なので変に形が横に広がらなく、子供の手に収まる程よい大きさにできたとと思います。

形ができたので、茶碗の外側に支給された用具で好きなアニメの絵とかを思い思いに書いていました。最終工程のロクロに乗っている茶碗を外す作業を子供たちに手伝いをお願いして、「マイ茶碗」の出来上がりです。

最後に園児たちからの可愛いお礼の言葉を貰いまして、やきもの教室の終了です。同時に園児たちとの場を共有するひと時も終わりが来ました。

新型コロナウイルスの影響で、2年間は古高取を伝える会とお茶会ができなくて残念な思いをしておりますので、今年は今焼物教室で作った「マイ茶碗」でお茶会ができることを願うばかりです。

吉田佳代子



●親子陶芸教室に参加して
(鞍手幼稚園)(地域対象焼物教室)

〈令和四年十月三日(月)〉

場所…鞍手幼稚園



我が家と高取焼との出会いは、子どもの通っていた幼稚園での親子活動です。子ども3人ともが鞍手幼稚園にお世話になりました。その幼稚園の年長児の行事の一つが高取焼の親子陶芸教室(茶碗作り)でした。最初に参加したのが8年前の長男の時(現在中学2年)、次が

6年前の長女（現在小学5年）、最後が今年の次女（現在年長）です。

陶芸教室では、最初はただの丸い粘土だったものが、先生方のご指導と子ども達の遊び心のおかげで、あつという間にお茶碗の形になり、最後は模様を入れることまでできました。子ども達3人の作った茶碗は、それぞれの性格を表すように三者三様でその大きさやデザイン、模様がすべて違うのですが、焼き上がりは3つ全てが綺麗な色と淡い光沢に包まれた立派なお茶碗となりました。今でも3つ並んで我が家に飾っています。

ちなみに、私は3人全員の陶芸教室に参加させてもらったので、誰よりも多く茶碗作りを楽しみました。完成品はすべて子ども用なので、残念ながら自分の茶碗は残っていませんが、子ども達3人と一緒に茶碗作りをした思い出は、私だけの贅沢な思い出です。

貴重な陶芸体験の機会をいただき、そして何より忘れられない親子の思い出を作っていたいただき、本当にありがとうございます。

（次回こそは、満を持して自分用のお茶碗を作りたいと思います！）

後藤伸也

なんでも掲示板

●明元寺もみじ法要

（令和四年十一月二十三日（水・祝））

十四時～十六時
場所：明元寺（直方市永満寺）

「カサコソと秋の深みを歩みけり」
朝日歌壇

たとえば、展示する写真は意味でしょう。絵画は表現です。そして音楽は感性の燃焼でしょうか。いずれも感応道交の世界です。もう20回は越えたらうと思えますが、



今年も「もみじ法要」を明元寺の紅葉の庭で催しました。

今回のゲストは沖繩音楽「ゆいまーるバンド」と「サクソフフォンカルテット」の2チームでした。当日は朝から雨で心配しましたが、昼頃に上がり庭のステージで法要と沖繩音楽は演奏できたのですが、終わると急に雨が降り出し急遽会館内でのサクソフォンの演奏に切り替えました。大きな障外もなくスムーズになげることが出来ましたので、スタッフのすばらしい対応と参加者の協力で終了できました。

晩秋の楽しい演奏会でした。

高取宗恵

●直方北小学校 お茶会

（令和四年十一月二十四日（木））

九時四十五分～
場所：直方歳時館

今まで学校でのお茶会はお手伝いしてきましたが、歳時館でのお茶会は初めての経験でした。赤い毛氈に次々と座っていく子どもたちを見て、正座は大丈夫かな、静



かにしていられるのかなと心配になりました。でも、正座にも辛抱強く挑戦してくれ、おしゃべりもなく思わず笑みが出ました。

30数名の子どもたちにお菓子の取り方やお茶の飲み方を教えて行きました。目の届かない子どもも出てきて、もう少し人の手があればと思いました。

子どもたちにとって、この非日常の体験は将来どこかで役に立つてくれるのではないかと思いが、私より背の高い6年生にエールを送りました。

成清一枝

●あじさい園だより

～金剛山もととり保全協議会～

〈令和四年六月〉

場所：金剛山もととり広場



疫病が収束するには3年はかかると言われた3年が経過しようとしています。

まだまだ不安な要素を含んでいる今日です。コロナだけではなく戦争の恐怖さえ加わった令和4年が終わり、新しい年を迎え、小さな星の地球で歓喜と悲劇が起こっている現状は複雑な感があります。

この様な日々が経過する中にもつても里山あじさい園は「コロナに負けるな」を合言葉に草刈り・草取りのボランティアを頑張ってきました。

「昨日できなかったことが今日できるようになるのが**成長**。昨日できなかったことが、できなくなるのが**老化**」手と口が達者な人達ばかり、山の作業に関しては老化はまだま

だの様です。

休眠中のあじさいの根元にチュウリップの球根を植え付け。4月には山いっばいの桜とチューリップが咲きます。

あじさいは、私たちの頑張りに応じてくれて6月には美しい花を咲かせてくれるでしょう。

「アサギマダラ」飛来のために植え付けした「ふじばかま」は高温が続いたため少し枯れましたが花を咲かせてくれました。来年は「アサギマダラ」も姿を見せてくれるでしょう。

同じエリアにヤギさんの置き土産(昨年ヤギに与えたカボチャ)が育って大きなカボチャが20本も取れました。ヤギさん、ありがとうございます。

里山の作業は毎週土曜日10時～ランチまで、ボランティア大歓迎。登って来ませんか。

末松登志子



「ふじばかま」

新理事紹介

高取焼永満寺窯

清水 筑山

令和4年7月より、理事に加わっていただきました高取焼永満寺窯の清水筑山さんに話を伺ってききましたので、ご紹介致します。清水さんは、「ピオンピオン仔うさぎ」の作成に、うさぎの手を借りたい程の忙しさの様でした。後継のご子息様と共に作成中とのことでした。

来年は、子ども達の作陶したお茶碗の数が、累計で1万個近くになることを伝えました。

清水さんのお話は、次のとおりです。

”古高取を伝える会の皆様には、日本全国に直方が高取焼発祥の地であることを発信していただいていることに本当に感謝しています。特に「次世代に伝える」の活動を通じて一連の授業(市内11校の6年生)(歴史を学び、お茶碗作り、お茶会)を経験することで誇りを持って直方を語れる子ども達に育って欲しいと願っています。お茶碗作りのボランティアの皆



「ピオンピオン仔うさぎ」製作中の清水筑山さん

高取焼永満寺窯

清水筑山(聡平)

初代清水筑山(豊1929～1993)が1965年(昭和40年)に直方市永満寺に窯を開き、遠州七窯の一つである高取焼の復元に力を注いだ。

二代目清水筑山(聡平1959)は九州産業大学の美術学科で彫刻を学んだ後、フクニチ新聞社に就職。1986年(昭和61年)、父豊が病に倒れたの機に福岡に帰郷、初代に師事し窯を継いだ。

”さん、大変なご苦勞をお掛けしています。また焼成に携わってくださいているお二人の先生に同業者として感謝の言葉しかありません。

● 子供焼物教室（焼物部会）

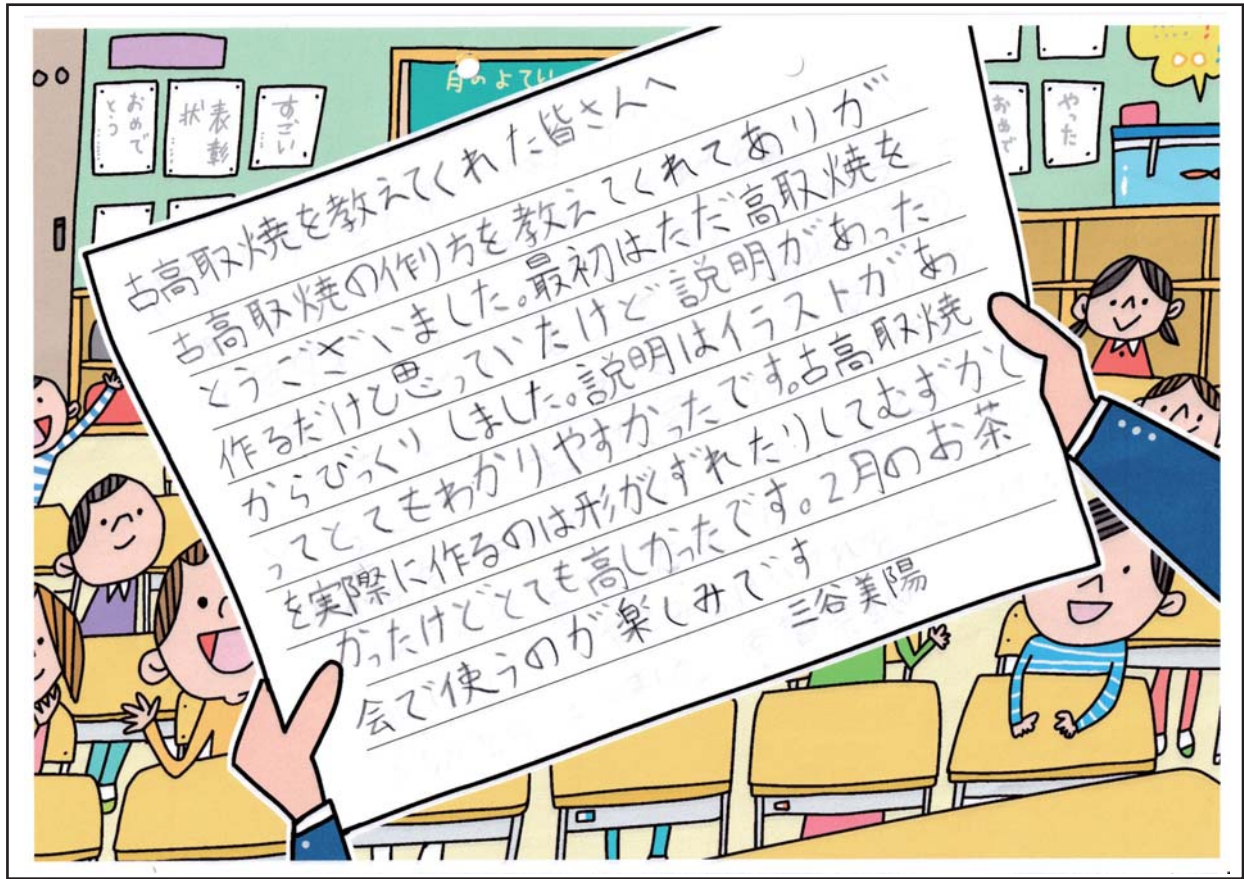
〈令和四年一月～六月〉
場所：直方市内の小学校

令和四年度も市内11の小学校すべてで焼物教室を実施しました。先生や子供たちが頑張られました。様子は、私たちが元気をもらう時間でもあります。様子を少しだけご紹介させていただきます。



直方南小学校6年生から感想文をいただきました。





お知らせ

● 高取焼基礎研修講座

令和四年度の高取焼基礎研修講座は、現地視察をもって終了となります。

現地視察(窯元探訪バスツアー)
 令和五年三月下旬
 訪問地…萩焼窯元



詳細は、別途ご案内致します。

子供焼物教室を体験した感想をお寄せください

マイ茶碗づくりを経験した子供たちも二十歳を迎えます。茶碗づくりをどう思っているでしょうか。

茶碗づくりや歴史学習を通して趣味や関心は広がったでしょうか等、マイ茶碗を持っている方々の現在の思いをお知らせください。

〈編集後記〉

一年間が、あっという間に過ぎてしまふ感じがします。歳を重ねると一年間が早く感じると言いますが、私も随分と歳を重ねたものだと感じます。今年もコロナウイルスの影響で様々な制限を受けた一年でした。何もできないまま、ただ歳を重ねるだけ、気持ちが焦ります。

しかし、子供焼物教室だけは毎年、着実に実施し、次世代へつなげられているのではないかと思います。皆様に感謝致します。皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

「古高取通信」会報・NO 36

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

令和5年1月1日

〈現在の会員数〉

正会員 1854名(54口)

賛助会員 11名(27口)

団体 1団体(1口)

〈マイ茶碗の数〉

9555個

〈事務局〉

〒822-1002 6

福岡県直方市津田町7-114
 TEL 0949(23)1311